



李仙碍建言第五十号

至 從
第 第
六 四
說 說



114
A 4452



第五回

立嘉度譯

大正十一年四月

亞細亞州於魯國ノ遠謀ヲ施サントスル
際其追從スル事跡竝智畧ヲ論ス

亞細亞州ニ於テ魯國ノ其所領ヲ廣メントシ施
ス所ノ策畧中他ニ卓越シ最注目スヘキ一事ハ
專ラ懇篤ヲ主トシ謹慎ニシテ良ク事ニ堪忍シ
其目途ノ常ニ一ニ歸著スルニアリ該國ノ初メ
テ亞細亞州ニ進入セシ以降今日ニ至ル迄百事
未タ懇信ヲ旨トセサルハ無シペートル大帝ノ
遺望ヲ公然ト白露セシ以來支那印度ニ親シク

飛騨

大歳

結ハントスルニ於テ必ス目途アラシキ事ヲ我輩
 一般ニ疑念セシト雖モ曾テ魯國ノ其國々ヲ強
 奪セント計ルニ例アリシヲ聞カサルナリ
 魯國於テ其領地トスルヲ最希望スル國々ノ土
 民ハ多ク雇制政治ノ下ニ居ヲ占ムルカ故其雇
 制政治ニ代ルニ何ナル法律ヲ以テ治ムルモ土
 人ハ必悦服スヘク而シテ若魯國ヨリ反謀ヲ勸
 獎セハ甘ンシテ之ヲ受ケ全國ノ治下ニ保護ヲ
 仰クハ必然ナリ然リト雖モ魯國ハ賢明ニシテ
 曾テ其國民等ヲ恣憑セサルノミナラス其統領

ニ對シ公然反ヲ謀リ魯國ノ幕下ニ歸順セン事
 ヲ乞フモノアリト雖モ尚全國部内ニ入ルヲ許
 サスシテ攘斥セリ蓋シ魯國ハ到底前書國々ヲ
 畧取ノ念慮アレハ混亂ノ生スルヲ希望スルナ
 ルハシト我輩ハ考察セサルヲ得スト雖モ未タ
 魯國ノ誘導ヨリ内乱ヲ起サシメシ事ノ絶テ無
 キハ明白ニシテ常ニ勢ノ止ムヲ得サルヨリ其
 國民ニ手ヲ下スト見ヘタリ既ニ充分攻撃スル
 ノ條理アリテ悉ク服従セシメタル國々ト雖モ
 之レヲ同國ノ叛圖ニ加ヘサルナリ而シテ之レ

一ノ版備ニ入ントスルノ際此少タリ且蚕食或ハ
 不條理ノ汚名ヲ受クル恐レアル時ハ寧口其土
 地ヲ舊統領主ニ返戻スルヲ以テ快トセリ
 魯國ノ貿易ト稱スルハ全ク其所領ヲ擴弘スル
 ノ託言ナリ然リ而シテ亞細亞州ニ於テ魯國ノ
 國威ヲ張ラントスルハ只盛貿盛大ヲ期スル卑
 一ノ目途タルヲ歐米ニ示サント計リ大ニ意ヲ
 用ヘリ此方策ヲ以テ陽ニ魯國商人ノ為ニ計ル
 ラ名トシ漸々亞細亞州中ノ領主ト貿易交通ノ
 條約ヲ取結ヘリ去レ且此條約中一トシテ其國

々ヲシテ終ニ魯國ノ所領トスルカ或ハ藩属ニ
 歸セシムルノ条ニ涉ラサル無シ然レ且此目途ヲ
 シテ一層明瞭ナラシメンカ為茲ニ近時ノ事情
 一兩件ヲ掲ケテ辨明スヘシ
 千八百六十六年タスケント國ヲ畧取ノ際ホク
 ハラ國ノ治下ナル近隣ノ國々及ヒココカンド國
 ノ市街ヲ魯國ノ所屬ト為スノ好機會ヲ得タリ
 シ時全國大將ロマノフスキハ直チニ此舉ニ及
 ハン事ヲ建言セシニシントパートルスホルク
 政府ニ於テハ之レヲ許可セサリシナリ尋テ千

八百六十八年中前書ノ國ト條約ヲ結ヒ此條約
 ノ一ヶ條ニ魯國商人ハココカント國內ヲ旅行シ
 且輸出入物品ニ二分五厘ノ稅銀ヲ納ムル以上
 ハ自由ニ貿易スル事ヲ許スヘシトアリ之レ魯
 國政府ハ彼^前於テ此條款ヲ守ラサルヲ前知セ
 シカ如ク二分五厘稅ヲ增加シテ六分ノ稅ヲ課
 スルニ至リ茲ニ於テ殆ト貿易ヲ阻碍シ加フル
 ニ魯國商人一人殺害ニ逢ヒタリ其事情タルヤ
 判然タリト雖モ尚魯國於テハ是等ノ事ヲ不問ニ
 置ケリ當今ココカント國ハ富饒ノ國ニシテ若魯

國ノ一回此近傍ニアル國々ヲ^續轄セント欲サ
 ハココカント國ハ第一ニ取ルヘキノ土地ナリ然リ
 而シテ今此國ヲ進撃スルニ於テ充分ノ理ヲ有
 スルモ尚之ヲ為サス魯國ノ口實トスル處ハ魯
 國ハ土地ヲ欲セス且ココカント人ノ魯人ニ對シ
 讐敵ヲ以テ接遇スルハ人ノ良ク知ル處ナレト
 我ヨリ恩ヲ以テ報ヒハ終ニ良善ノ情意ヲ起ス
 ニ至ラント希望スルカ故ニ堪忍シ能ク文々ハ其
 暴撃ヲ忍フヘシト云ヘリ此事魯國ノ希望セシ
 如ク其結果ヲ得サリシナリ然レテ畢竟魯國ノ

巧ニ奸計ヲ用ニ内國ヨリシテ事ヲ起シ人民
 中倍不平ヲ懷カシメ其間内乱ノ起ランハ必定
 ナルヲ知り此時ヲ以テ兵馬ヲ以テ之レヲ壓服
 スルニ充分ノ條理ヲ得ニ事ヲ豫定セシモノナ
 ルベシ兼テ希望セシ如ク好機會數年ヲ出スシ
 テ自然ト發起シ來レリ此原因タルヤ千八百七
 十四年七月中其領主ニ從属スル官吏等法ニ合
 ハサル租税ヲ賦課セシヨリ治下ニアル山民
 居住スルキルデスノ地方ニ於テ反謀ヲ企テ此反
 逆ヲ領主ニ於テ平定スルヲ得スシテ魯國ニ援

兵ヲ乞ヘリ茲ニ於テ魯國ハ山民等ノ意心ニ不
 快ヲ抱カシムルヲ望マサルカ故先年来領主ノ
 魯國人ヲ酷ニ遇スルヲ責メ之レヲ名トシテ助
 カスルヲ否メリ因テキルデス人ハ此新タニ得
 タル便益ヲ以テ倍勇氣ヲ得數ヶ所ノ市街ヲ畧
 取シ領内過半ヲ伐從ヘ其土地ヲ以テ魯國ニ降
 ラシトセリ然レモ魯國ハ反逆人ト通信談話ス
 ル能ハサルヲ主論トシ之レヲ受ケサリシナリ
 時ニ季候寒ニ赴キ争鬪ヲ為スノ季ニアラスシ
 テ其形勢ノ止ムヲ得サルヨリ終ニ休戦ト成リ

シカモ季候ノ順良ニ帰スルニ再々争鬪起ルハ
 シト此時思考セシニ果シテ其先見違ハスロン
 トシ八月廿七日附シシトバールスボルクヨリノ
 電報ニ大将コーフマン大軍ヲ以前書ノ國地ヲ
 攻撃セシ事ヲ載セ尚其後九月七日附バートル
 スボルクノ電報ニ大将コーフマン其抗敵スル
 モノヲ悉ク打平ケタレハ之ヨリコカンド國ニ
 進入シ同國ヲ襲撃セントノ軍備ヲ為ス事ヲ載
 タリ此進撃ハ結局該地ヲ魯國ノ併呑スルカ或
 ハ然ラサレハ該地ハ旧領主ノ治下ニアラシメ

該國法ニヨリテハ全ク魯國ノ適宜ニ設置セシ
 メ全國ニ於テハ君權ヲ握リ重任ヲ擔承スル事
 無ク却テ全益ヲ得ルノ方策ヲ設クルカノ兩策
 ニ出サルハシ既ニ魯國ハ前文等シキ処置ヲホ
 クハラ國ニ施セリ

我輩ノ知ル如クアフガニスタン國ハ魯國ノ為
 最廣大ナル利益トナルハキ國ナレモ中央亞細
 亞州中魯國ハ此國ニ限り未タ貿易ノ交通ヲ開
 カス全ク全國トノ交際ハ只礼節ノ書翰ヲ贈答
 スルノミナリ然レモ事實其意裡ハ多分中央亞

細亞中他ノ各國ニ於ルヨリモ最注目スル處ナ
ルハシ

此近傍ニ居ヲ為ス住民ハ韃靼人、印度、并土人等
ニシテ教種ノ人種雜居スルヲ幸トシ魯國於テ
其管事ヲシテ百般該國ノ住民ヲ誘導シ全國ノ
為ニ計ルヲ怠ラサリシナリ現今該國ノ領主ニ
シテ英國ノ給料ヲ受領スル^ルシルアリト礼節ノ
書翰ヲ贈答シ之レヨク懇信ヲ得シヨリ寧ロ其
住民ト深ク懇和ヲ盟フニ若クハ無シト思考シ
旧領主^アボルラーマン^名ニサマルカントノ地

ニ於テ隱遁所ヲ興ヘタリ此^アボルラーマン^ハ
魯國ヨリ一ヶ年二萬^ルポ^ルブル^ル賃^魯ノ給料ヲ受ケ
現今此所ニ居住セリ去レ^レ魯國ニテハ英國ヨ
リノ苦情アラシク預防センカ為メ同氏ヲ保護
スルハ舊位階ト不幸トヲ愛惜スルノ念慮ヨリ
他ニアラサルヲ陽ニ示シテ待遇セリニヶ年前
^アボルラーマン^ヨリ十萬^ルポ^ルブル^ル借用セン事
ヲ大將^コー^フマン^ニ歎願シテ曰ク前ノ金額ヲ
所有セハ^シル^アル^ヲ轉覆シ再ヒ舊王位ニ復ス
ルヲ得ヘシト然レ^レ公氏ノ願望ハ採用無ク其

後亦「ペー」トルスホルクへ旅
 レ氏准可ナカリシナリ之レ全ク魯國政府へ其
 宿望ヲ陳述セントノ意趣ナリシナルヘシ魯國
 ハ斯ノ如キノ方策ヲ以テ生國ニテ人望アルモ
 ノニ恩惠ヲ加ヘ置クナリ既ニ若全氏何レノ日
 カ其生國ニ歸ルノ日アラハ全氏ノ為其國民義
 戰ヲ起シ舊王位ニ復サシムベシトノ説アリ魯
 國ハ早晚此事件ノ發スルニ方リ用ユル處アリ
 テ全氏ヲ保護シ且全氏ノ黨與ヲ良ク撫育シ一
 田時玉ヲハ從來ノ恩惠ニ忠節ヲ以報償セシム

ルノ日途ナルヘシ

英國於テアフガニスタニ人ノ為ノ其管事ヲシ
 テ金銀ヲ浪費スルトモ既ニ魯國ノ同國ニ得
 ル國威ヲ消滅セシムルヲ得ガルヘシ
 魯國カ其旗下ニ屬セシメント欲スル國ニシテ
 敢テ一時ニ急迫セサルノ場合ニ於テハ其國々
 ニ對シ前書ノ如キノ方策ヲ施セリ然レハ形狀
 切迫シ權威ノ所分ヲ為スヲ必要トスル時ハ決
 レテ其機ヲ失ハサルナリ即チ千六百年代支那
 ニ對シ施セシ事跡ト述来ア
 凶ヲ略取シ且

「カ」フ「イ」プ「ベ」グ「名」ニ「對」シ「施」シ「有」道「ノ」所「分」ト
ヲ「以」テ「證」ス「ヘ」シ「是」レ「等」ノ「類」例「ヲ」舉「ケ」ハ「無」限「ア」
リ「ト」雖「モ」無「益」ノ「長」文「ト」ナ「ラ」シ「ヲ」恐「レ」他「ノ」事「件」
ニ「經」過「ス」ヘ「シ」

第五說

亞細亞州中魯國ニ於テ既ニ其版圖ニ入レ

タル國々並ニ将来必全國ノ版籍ヲラシ國

々ノ地勢並國誌ノ大畧ヲ論ス

歐羅巴並亞米利加州ニ於テ一般普通ニ説アリ

曰ク假令魯國ノ亞細亞州中跋扈スルトモ該地

ノ所領ハ魯國ノ富强ヲ増加スルヨリモ寧口其

擔負スル所重ク全國ノ所屬トセシ地方ノ内「ア」

ル「ク」テ「イ」ツ「ク」洋ニ接スル國々並「カ」スピヤン「海」

ノ東部ニ在ル國々ノ如キハ 砂漠ニシテ一

ノ物産生スル無ク土地ハ野
 ナレハ此人種等ヨリ善益ヲ期スル能ハスト且
 ベートル大帝ノ后嗣等ハ其大望ヲ果サント勵
 カスルノ際大ニ失策ヲナシ全國ヲシテ其威力
 ヲ減シ薄弱ニ落入レシメタリ故ニ若魯國ヲシ
 テ今少シク攻入シ易キ時ハ歐羅巴中其國カ第
 二等ニ位スル國ニ於テ少シク奮カテ顯シ攻撃
 スルニ方リテハ全國ノ滅亡ヲ豫算シ得ヘシト
 實ニ此說確正ナリト云フヘシ之レヲ證サン為
 メ茲ニ魯國ノ所領トセシ國々各國ノ畧記ヲ掲

クハシ

シベリヤ國

魯國於テ初メテ其治下ニ從屬セシメタル國ハ
 シベリヤ國ニシテ千五百六十三年ノ頃ナリ即
 チ其土地ヲ發見セシヨリ三十二年ノ後ナリ該
 國ノ季候ハ土地ノ位置ニ依リ年中極寒ニシテ
 十二月中ノ寒暖計ヲ見ルニ二百五十四度ノ低
 度ニ下レリ即チフアーレンハイト計ノ零度ヲ
 下ル七十度ニ方ルナリ北緯六十度以上ノ土地
 ハ大概不毛ノ地ニテ米穀ハ
 果樹ト雖モ生

スル無クデニヤンスキリ村ノ北緯五十九度
 半ノ地ニ至リ漸ク僅ニ生産スルモノアリト雖
 モ只大麥并裸麥ノミナリ北緯五十九度并六十
 度ト東經百六十度トノ間ニ在ルオコツク近隣
 及ヒ北緯五十度二十一分東經百五十度四十分
 ニ在ルウトコグオストロクノ地ニ於テ穀物ヲ
 時付ケ再三試験ヲ為セシカニ悉ク其結果不良
 ニテ穀葉トモ冬季ノ長キト秋季夜間ノ霜トニ
 妨害サレ生熟ニ至ラス既ニ全地極南ノ沿岸北
 緯五十一度ニ在ルカムシヤツク邊於テモ前ニ

等シキ景状ナリ

シバリヤ中今少シク温帯ニ地位スル部内モ多
 ク沼地並塩質ヲ含メル廣原ナルカ故ニ甚ク不
 毛ニシテ疲地ナリ只遙カニ南部ニ進入スレハ
 開化國人民生活上ニ要需ノ諸物品ヲ作り得ハ
 キノ地アリウラル山並其他ノ連山中牧場ニ牧
 蓄ニ用ユル數種ノ草盛シ繁茂シ適宜ノ牧場
 アリ且ドボル河、イセツト河及ヒイスシン河ニ
 沼^沼ニ擴延シタル殊ノ外富饒ノ地アリテ該地ヨ
 リドボルスリ縣廳及ヒベルンオレンホルクノ

地方ニ穀物ヲ輸送スルナリ
 北緯五十五度ト五十六度トノ間ニ在ルコルヨ
 一ニ縣下ノ都府カラスノヤンスキノ地方ハ寒
 厳シク而カモ冬季長シト雖モ其土質ノ肥地ナ
 ルカ故ニ案外生熟良ク苜蓿收モ巨多ナリ此肥地
 ハカラスノヤンスキヨリシテバイカル及ヒ其
 近傍迄連續セリ該地ノ内バイカル湖近傍就中
 東ノ方アルゴン河邊迄ノ地ニ韃靼人ノ食料ト
 スル有角ノ蓄類馬并山羊數多ク飼フタル牧場
 各所ニアリ然レモ此邊尚數ヶ所不毛ノ大原ナ

シベリヤ部内中海岸ニ接スル土地ニ於テハ松
 并落葉松ヲ生セリウラル山ニハ樺杉松落葉松
 白楊赤楊ヲ生シ又其背面ニ方リ僅ニ楮及ヒ榆
 樹アリ
 ホイヤス山ノ近傍ソリカムカイヤヨリ二里ノ
 地ニ磁石并其他鑛鑛アリ
 銅ハ北緯五十七度イカトーンボルクノ近隣ソ
 ンシヨンノ北西カサンソリカムスカイヤノ地
 及ヒ北緯五十八度ヨリ六十度ノ間オスサト

ソリカムスカイヤトノ間ニアリ

金鑛ハ北緯五十七度四分東經七十八度四十八分ニ在ルビズミンスカイヤノ地ヨリ産出セリ

ソリカムスカイヤノ地ニ在ル製塩所ハ薪拂底ノ憂無キ以上ハ最利益ヲ生スヘキナリ

佛國人ラベーシヤブ氏ノ報知ニ全氏千七百六十年間前書ノ地ヲ尋問セシ時ニ方リ僅ニ八千

フランク^{佛貨ノ名}ノ諸雜費ニテ七万^{フランクノ日名}ノ

價ナル塩ヲ製出セリト云ヘリ

千八百六十四年英國著學術總覽ニ因テ見ル時

ハ千八百二十三年ヨリ千八百二十八年迄十六

ケ年間ウラル山并ネルトシンスカイ山ニ在ル

金銀并^{プラチナ}鑛坑ヨリ總計價千八百万^{ホン}

トステルソング^{英貨}ノ金屬ヲ産出セリトアリ

該地産物中最貴重スヘキモノハ獸皮ニシテ其

最モ主ナルモノハ鼠狼ノ種類ニテアレシテ

ン島並^{カムシヤツカ}ノ地ヨリバツコラ及ヒカ

マ迄ノ地各所ニ巨多ナリ貂^{テシ}ノ最美ナルモノハ

ヤクツク及ヒウエルツチンクノ地ニ夥多ニテ

普通ハ白貂ナルカ該地ニハ最珍稀ナル黄貂^ア

リ又鳥類無限ニシテ重ニ鴨、鴈、鵠、鶺鴒ノ類、鶺鴒ウヰシソ、
ノウボイル下鳥野鷄、鷓鴣等ナリ

氷海並東海ニ於テハ鯨、海豹、水獺、一角魚、ボール

フキス此腦骨ヨリ海犬、海豚、海獅子、海牛、海熊及ヒ

其他ノ種類多クシテ皆其皮或ハ魚油ノ為メ人

ノ要需スルモノナリ

レベリヤノ貿易ハ内地ニテ消費スル物品ノ賣

買ト外國製ノ物品ト交換センガ為メ内國產物

ヲ歐羅巴魯西亜ニ輸出スルトナリ其貿易品ハ

前書ニ掲ケタル各種ノ獸皮及ヒ金屬ニテ其他

ハ支那製ノ物品ナリ且又那ノ東部ニ於テハ其

產物ヲ歐羅巴ニ輸送スルノ便ナケレハシベリ

ヤヲ以テ市場トセリ金屬并獸皮ハ主ニ政府ニ於

テ專賣シ漂泊人種ノ貢租ノ如キモ獸皮ヲ以テ

官ニ收納セリ尤文武官吏并兵隊ノ給料ヲ除ク

ク外前書獸皮貢租等ノ歲出入表ヲ製セサレハ

其數量ニ至ツテハ詳ナラス

魯國官吏、兵隊、商人及ヒシベリヤノ各州郡ニ居

住スル流罪人ヲ除ク外該地一般ノ土民ハ巨

多ノ人種集合セシモノナレハ總テ其原質並風

俗ヲ各異ニセリ此人民等ハ漸々魯國ノ法律
 服從セシモ、ニテ年々定則ノ貢租ヲ納メルナ
 リ其政治ハ歷制ナラス他ニ苦惱ヲ受ルノ事無
 ク各人自己ノ産業ヲ樂メリシバリヤ北部ノ地
 ハ異リタル人種二十種ニテ居ヲ占メタリ其重
 立タルモノハトングース人、サモアド人及ヒオ
 マテイヤク人ナリトングース人ハレマ河ヲ經
 過シ黑龍口並東海ニ接シ北緯五十三度ヨリ六
 十五度ノ間ニ蔓延スル廣大ナル砂漠中ゼネセ
 イ河邊ノ地ニ住居セリサモアド人ハ北緯六十

五度ヨリゼネセイ河ニ向一殆トレマ河ニ至ル迄
 氷海ノ海岸ニ住メリオステイヤク人ハノウイ
 ヤゼムリヤ島ノ南東ニ方ル陸地ニテ北緯凡七
 十度ノ地ニ居ヲ為セリ
 モンゴリヤハイルク地名ノ管下ニテサレンガ
 近傍北緯五十度ト五十三度ノ間東經百二十二
 度ヨリ百二十五度ノ間ニ住居セリ此人種ハ二
 十種族ニシテ千七百六十六年ニ於テハ男子六
 千四百十八人ナリ
 プラツ人ハドワンリヤ及ヒサレンゲヤノ河岸

バイカル湖並ゼネセイ河ノ上部ニ居ラ占メ此
 人種ハ甚タ勉強ニシテ牧蓄ヲ以テ産業トセリ
 韃靼人ハ教種ノ人種ニシテ各其名称ヲ異ニシ
 シベリヤ洲内ニ散居セリ其トボル河邊ニアル
 モノヲ「トボルスキヤン」韃靼人ト云ヒトムスク
 市街ノ上下トム河ノ兩岸ニ居留スルヲ「トムス
 キヤン」韃靼人ト称シモ「ゴリヤ人」ニ類似スル
 人種ヲ「カラスナヤルスキヤン」及「クセルツ
 キヤン」韃靼人ト呼ビ又半ハ農事半ハ牧蓄ヲ以
 テ産業トセル人種ヲ「オビ」韃靼人ト唱ヘ又ツ

チユリム河ニ沿ヒタル土地ニ住スル韃靼人
 アリ其他種々ニ名称ヲ異ニシ「オビ」及「ジエ
 テイ」ストノ間ニ在「バラバ」ノ廣原ニ住スル
 モアリ或ハシユヨム山中ニ於テ牧蓄ヲ業ト
 シゼネセイノ左海岸ニ居ラ占ムルアリ或ハト
 ボルスク並「コルヒ」ワン縣管下ノ内及「ベ
 ム」縣管下ノ東半部ニ居住スル種族アリテウラ
 ル山ノ外部ニアル全地方ハシベリヤ韃靼人ノ
 一已特別ノ住所ト見做セリ

シベリヤ南方ノ國々

魯國於テ近來既ニ所領トシ或ハ將來所屬トシ
 ント考案スル處ノ國々ハ即チ第一ニ現今支那
 ノヒーロンチヤン省ナル滿州第二ニモンゴリ
 ヤ第三ニ支那ニテツヤン、サン、マン、ルット称シ
 其西部ニハ此紙中屢記載スルヤルカンド及ヒ
 カスガルノ市街アリテ當今ヤコロブベク名ノ
 所領タル東部トルケスタン國、第四ニ支那ニテ
 ツアン、サン、パール、ルット唱ヘ其南方高名ナルイ
 リノ溪谷アリテ現今其一部ハ魯國領セミルス
 ツエンスクニ接シタルスーレントリヤ國第五ニ

キワ國、ボクハラ國及ニコンデス國、合併シタ
 ルツールクスノ地方第六ニキルダス國但「キル」
 ノ内ヨリ既ニ「ウラ」「アモ」リンスク及ヒ結局第
 シルダリヤノ州郡ハ魯國ノ領ト成レリ
 七ニアフガニスタン國ナリ前書ニ揚ケシ國々
 ノ内ケベツト國並ベルーケスタン國モ暗ニ含
 ナリ

滿州

第一ニ掲ケタル北東滿州ハ全地韃靼人ノ居ラ
 占ムル所ニシテ訪地ノ韃靼人種ハ其形像ハ殆
 トモンゴリヤ人ニ似タレモ容貌ハ少シク穩和

ナリ此國ハ山岳連リ隨テ樹林多シ其緯度ニ於
テハ佛蘭西國ト等シケレモ寒氣ハ同國ヨリモ
甚シク該地ノ河水ハ九月ニ至リ既ニ凍氷スル
ナリ

モンゴリヤ國

滿州ノ西方ナルモンゴリヤ國ハ各所ニ山岳多
シシテ砂漠ナリシヤノ或ハゴビノ廣大ナル沙
漠ハ殆ト全地ニ跨リ其廣サ幅凡二千マイルニ
シテ魯國ト支那トノ間ニ堅固ナル國界ノ柵ヲ
為セリ此廣原ハ亶ニ不毛ノ地ニシテ水無シ然

レ凡其間小河ノ通過シ或ハ泉及ヒ湖水ノアル
アリテ漂泊人種ノ為メ其牧場ノ間ニ漂泊スル
ノ便ヲ為セリ

東部トルケスタン國

ヘロールトクノ大連山ノ東部カスガル及ヒ
セルコンド地方ノ回教信仰ノ土地モ此部ニ含
有セリヤルコンドノ地ハ印度カンプル及ヒ一
回獨立タリシ韃靼ノ地ヨリ來集スル商人ノ滯
泊所ニシテ市街巨多ノ美店アリ此市街ノ周圍
ニ在ル土地ハ富肥ノ地ニシテ水利良ク且勝景

ニシテ宿村多ク加フルニ香味ナル菓物ヲ生セ
 リツアンサンマンルノ東ニ伸擴セル東部ト
 ルケスタシノ地ハ三方ハ高山ニシテ他ノ一方
 ハ沙漠ヲ以テ包ミ水平ヨリ三千フートヨリ四
 千フートノ高地ニシテ長溪ヲ為セリ該地ハ夕
 ルン河ニ因テ水利ヲ得ルナリ又該地ノ空氣ハ
 晒乾ニシテ雨殆ト稀ナリ然レモ山岳ヨリ落ル
 雪解ノ水ヲ以テ河々數ヶ所合流河ヲ為シ此水
 ヲ以テ砂地ヲ濕シ肥地ト為ナリ季候ハ世界中
 最健康ニシテ人口ハ六百萬人ナリ且植物ハ歐

羅巴ニ等シク山岳ニハ金銅鍍及ヒシエード石
 ヲ含有セリ

東部トルケスタシ國從來ノ土人ハアルクン人
 ナレモ耶蘓降誕ヨリ凡二百年前コーチート称
 スル韃靼人種其北東ナル他ノ韃靼人種ニ壓迫
 セラレ此部内ニ進入シ從來ノ土民ヲ逐出セリ
 而シテ此地ニ残リシモノハ漸々韃靼人ト婚ヲ
 結ヒ其容貌ヲ韃靼人ニ移セリサレモ亦其言語
 ハ之レヲ韃靼人ヨリ傳來セリ紀元凡八百年代
 該地ノ土人ハイスラミス云教ノ信者ニ歸シ而

シテ千三百年代コージヤ下称スル狂妄ナル回
 ヲ教ノ人種ブチマリマノ地方ヨリ来リテ該地
 ヲ掠奪セリカスガリヤ人ト支那人トハ常々切
 ナル和交ヲ保存セリ
 萬里ノ長城ヨリシヤンサン山迄ノ間行商ノ往
 返スルヨリ各人種ヲ異ニスル人民常ニ結合シ
 東部ナルケスタン人ハ多ク支那人ノ血種ヲ受
 ケ然ルニカンズ人並センシ人ハ回々教人種ノ
 ツールク人ノ血ヲ混合セリ故ニ此交血ヨリ半
 ハツールクス人半ハ支那人ナル一種ノ人種ヲ

為シトシガム人ト称セリ
 カンヒ國ノ都府ニシヤンシフートガスガル國ト
 ノ間ゴヒノ沙漠ヲ行商ノ經過スルアリ此行商
 等ノ經過スル地方ハ良ク灌漑スル時ハ肥地ト
 ナルナリ此途中カムルオルミチ及ヒアクソト
 ノ大村落アリテ此村落等ハ総テチエンシヤン
 山ノ北クールダヤノ地ニ在留スルイリ縣令ノ
 管轄下ナリト云ヘリ該地支那ノ治下ヲ離ルハ
 以前カスガルノ支那縣令ハ穀物ヲ以テ納ムル
 貢租ノ他ニ年々銀千七百ポントステルリンク

英ヲ北京ニ送ルヲ以テ定例トセリ

チベット國

チベット國ハ西ヨリ東ニ至ル九千七百三十五里北ヨリ南ニ至ル七百八十里ニシテ廣大ノ土地ナリ該國ハ高山ヲ以テ支那トノ境界ヲ為セリ此山岳ハ常ニ積雪ノ解クル無ク只嶮岨ニシテ狭小ナル道ヲ經テ漸ク通行スルヲ得ヘク故ニ旅行ハ最危害ニシテ困難ナリ其貿易ハ金銀並他ノ珍奇ナル物産ニシテ重ニ支那ニ輸出セリ該地ハチベット大王ノ住所ナリ

アフガニスタン國

アフガニスタン國ノ如ク區分セリアフガニスタン人四百三十萬人ベルーチ人百萬人韃靼人百二十萬人バルシヤ人百五十萬人印度人五百七十萬人雜人種三十萬人ナリ該地ハ意外ニ山岳多クシテ航海スヘキ江河モ無ク亦適當ノ道路ナク故ニ貿易品ノ運輸ハ獸類ノ背ヲ以テセリ殊ニ荷車無ク而シテ其運輸ニ用ユル獸ハ重ニ駱駝ナリ行商ハ數匹ノ獸類ヲ卒ヒ一日八里或ハ十里ヲ旅行ス

ルナリ其道路ハ冗山或ハ急流ノ河底ニ沿ヒ或ハ用水ハ勿論食料ト器モ皆無ノ大原ヲ經或ハ嵯峨タル陝路ニシテ岩石ノ溪谷ヲ通シタリ貿易ノ交通ハ專ラ印度ベルシヤ支那及ヒ獨立韃靼トノ間ニアリ人民ハ二種ニ區分セリ即チ牧畜ヲ産業トシテシトノ内ニ住居シテ群獸並牧蓄者ノ為其食料ヲ得ルノ目途ヲ以テ季候ニ隨ヒ各所へ轉移スル人種ト農事ニ就キ永住ノ家屋ヲ有スルモノトノ二種族ナリ牧蓄者ハ悉ク強盜ナルカユヘ富有ノモノ一人ノ旅行ハ該地

内何レノ地ト雖モ甚ク危難ナリ土人ハ天賦猛烈ニシテ殺伐ヲ好シ其行跡ニ於テ奸計多シ然レ氏家族中並其種族ノ社會中互ノ交誼ニ至ツテハ愛情厚ク甚ク嚴重ナリ且遠國ニアル時ハ其自國ノ美ヲ慕フ事甚ク切ニシテ他國ニ轉住スルモノ最モ稀ナリ

獨立トルケスタン國

シベリヤ部中美地ニ住スル韃靼人並モンゴル人種ニシテ中央亞細亞ヨリオルフア並オレンボルクノ南歐羅巴魯西亞ヲ南部諸州迄ノ地ニ

伸擴シタル不測ノ廣原及ヒベライヤカマウヲ
 ルカ河トウブル山トノ間ニ在ルトボルスク國
 ノ一部ヲ為ス地方ニ居住スル韃靼人並モシゴ
 リヤ人モ亦此獨立トルケスタンノ地ニ居ヲ占
 タリ

魯西亜國ニ居住スル韃靼人ハカムロツク
 ス並バステキルス又ト称セリ此人種ハ千
 六百七十六年、千七百八年及ヒ千七百三十
 五年中再三反テ謀リ暴舉ヲ企テシカレ終
 ニ服從シ今日ニ至ツテハ魯國政治ノ下ニ

於テ安寧ナルヲ覺知シ現今多人数ニ及ヒ
 悉ク繁栄セリ此土民ハ皆舊韃靼ノ風俗ヲ
 存シ牧蓄ヲ以テ其營業トセリ此土民ハ二
 十七族アリテユサツク人ト同等ノ處分ヲ
 レハ魯國陸軍ノ徵集ニ應シ兵ヲ出サ、ル
 ヲ得ス而シテ総テ馬具兵器ニ至ル迄自費
 ヲ以テ之レヲ辨セサルヲ得サルナリ
 該地ハ從來トボルスクノ地迄及延セリ然レモ
 現今ハキワギタハラ及ヒクンドスト稱スル最
 小ノ獨立國三ヶ國ニ分離セリ此國々ノ間屢互

ニ戦ヲ交ヘリ到底以國々ニ其北方ナルギルグ
 リス人種並現今スミルタリヤ及ヒセミレツエ
 ンスク州ノ如ク數年ヲ出スシテ魯國ノ併吞ス
 ル處トナルヘシ該地ノ人民中多クハ漂泊人種
 シテ牧場ヲ求ムルカ為メ夏冬移轉スルナリ
 残余ノ人種ハ市街或ハ村落ヲ為シ永住ノ家屋
 ヲ有セリ此内最重立タルモノハキワ人ボクハ
 ラ人サマルカンド人(此人種ハ衰微ヲ顯セリ)及
 ヒコカンド人ナリ
 韃靼人中漂泊ノ人種ナルモノハ最卓越セル騎

老ニシテ其馬ハ非常ノ困苦ニ堪ユルナリ若シ
 レフ良ク訓練スル時ハ鞭ヲ加ヘスシテ一日ニ
 八十里或ハ百里ノ道ヲ行クナリ此人種ハ強奪
 ヲ好ミ甚猛勇ナリ此人種ノ一族タルユスベツ
 クス人ハ争鬪ヲ好ミ其人種中ニ於テ勇武ヲ以
 テ自慢シ最強壯ナリボクハラ人ハ一般長鎗、劍
 及ヒ楯ヲ携ヘリ中ニハ火繩銃ヲ有スルアリ而
 シテ悉ク其腰ニ短劍或ハ小刀ヲ携帶セリ
 他ノ韃靼人ノ居住スル市街村落トノ貿易ハ總
 テ魯人ノ手ニアリ夫英人ヲシテ悉ク退去セシ

メタリ現今ハ魯國於テ製造セシ歐羅巴製ノ諸
 物品ヲ魯人ヨリ土人ニ賣渡セリボクハラ並キ
 ヲ兩國ノ貿易ハ行商アリテ獸類ノ背ヲ以テ互
 ニ物品ヲ運輸スルナリ其行商ノ出發スル地ハ
 オスタラカンニシテオレンボルクノ道ヲ經テ
 同國ニ達スルナリ途中長遠ニシテ危難ナリ其
 故ハ現今魯國ノ版圖ニ入リシ以降ハ少シク減
 シシタルニキルギリス人並クガクス人ヨリ襲
 撃ヲ受クルノ憂アレハナリ

國地ノ廣狹人口政府並貿易ノ事

魯西亞領シベリヤハ近時千八百七十三年ノ計
 表ニ依レハ五百七十九萬千方里ニシテ人口ハ
 五百五十萬ナリ此中タランスカウカシヤ國ハ
 含有セス該地ノ廣サハ七萬三百四十八方里ニ
 シテ人口二百四十二萬四千五百四十六人ナリ
 東部トルケスタン即チチヤンサンマンルーノ
 地ハ四十九萬方里ニシテ其人口五百五十萬ナ
 リ
 獨立トルケスタン則チキトボクハラコンドス
 ノ地ハ四十九萬二千方里ニシテ人口千五百萬

人ナリ

アフガニスタン國ハ二十一萬方里ニシテ人口ニ至リテハ種々ノ異説アリ千萬人ヨリ千四百萬人迄ト云ヘリ

ブルチキスタン國ハ十九萬二千方里ニシテ凡六十萬ノ人口アリ

チベット國ノ人口ハ詳ナラス

魯國於テハシベリヤ近傍ニ散居セル人種ニ施セルカ如ク近來所領トセル中央亞細亞ノ國々ニ對シ等シク寛大ノ治法ヲ適用セリ此事件ニ

ニ付最肝要ナル巨細ノ事情ハ予既ニ陳述セルカ如クスケユイレ氏ノ報告ニ詳ナリ土人ノ風俗作法並宗教等ヲ困守スルニ於テ毫モ妨害スル無ク依然下舊ニ因レリ之レヲ土人ヲシテ曰ハシメハ只旧政府ヲ離レ現今他ノ政府ノ下ニ居住スルノミニテ寧ロ旧政府ノ治下ニハ惡弊多カリシモ魯國ノ略取以降ハ其弊消滅セリト云ハンノミ

亞細亞州中魯國ノ保有スル所領ノ如キ廣大ナル國地ニシテ殊テコフルニ新タニ畧取セシ地

ニ於テハ自然止ム得サル事ニテ既ニ各管下
 ニテ大ニ不規則ノ事アリ是カ為メ人民不平ヲ
 抱ケリ此原由タルヤ一両件ハ魯國官吏ノ不正
 ニ関セリト雖モ多クハ其官吏ト部下ノモノト
 間互ヒニ言語ヲ熟知セサルヨリ自然其意ノ
 貫徹セサルニ根基セリ其使雇スル通辨官ハ屢
 不充分ニシテ時トシテハ甚不正ナリ通辨官ノ
 地位タル双方ノ中間ニ立ツヲ幸トシ使用ヲ為
 スノ際自己ノ私欲ヲ逞テスト雖モ雇主ニ於テ
 其奸ヲ省破スルノ術ナシト聞ケリ然レモ此弊

タルヤ政體ニ関渉スルニアラス多クハ全ク一
 時ノ欠典ヨリ生スルハ漸々自然ト消滅スヘシ
 魯國ハ英國ト違ヒ亞細亞人民ト製造物ヲ争フ
 ノ國勢ナラス自國於テ特別ノ保護ヲ要スヘキ
 製造所ヲ保有セス故ニ土人ノ營業ヲ壓制スル
 等ノ事ハ曾テアラサルナリ土人ノ開化ニ進歩
 スルニ隨ヒ魯國ノ繁榮ト幸福トヲ増加シ而テ
 土人ヲシテ其治下ニ服従セシメントスルベト
 トルスボル久政府ノ目算ヲモ倍助クルナリ
 土人等ノ間ニ於テ一般ノ通信ヲ開クハ土人ノ

為ノニハ益ナレ氏會國ニ於テハ格別ノ益無カ
 ルハシ物産製造ヲ勸介スレハ全ク土人ノ希望
 並要需ニ供スルモノナルヘシシベリヤ滿州或
 ハ中央亞細亞各部トモ人口多数ナラス隨テ人
 民ノ要需品少ク又外國製物品ノ需要モ實ニ僅
 少ニシテ其輸入ヲ統轄センカ為英國ノ印度ニ
 施スカ如キ方策ヲ以テ人民ヲ壓制スヘキ程ノ
 荷高ニハ至ラサルナリ
 シバリヤ於テ貿易景況ノ如何ハ既ニ詳明セリ
 中央亞細亞ノ貿易ハ下等ノ木綿結並アスタラ

カント稱スル美麗ナル鹿皮ノミニテ此些少ノ
 輸出ニ對スルニ僅ニ菓物木綿織物毛織物茶並
 其他僅少ノ物品ヲ輸入セリ内地貿易中馬毛並
 干菓ハ既ニ大ニシテ道路ノ便ヲ得ルニ至ラハ
 良盛大トナルヘシ此事ハ必政府ノ注目スル所
 タルヘシ其故ハ他國ヲ仰カス國內ニテ自辨ス
 ルハ其國益タレハテリ此一條ハ經驗上至便ト
 スル處ヲ取り以シク改良セハ必良結果ヲ得ヘ
 キハ疑ヲ容シサル所ナリ
 現今ノ形勢ニ於テ該地ノ為メ政府ノ擔負スル

所甚重シ然レモ此シ支那或ハ英國ト事アラシ
 ノ時ニ備フルニ萬ノ大軍ヲ該地ニ屯營セシム
 ルヲ要セサレハ其政府ノ擔負スル處良輕カル
 ヘシ
 左ニ記スル表ハ中央亞細亞於テ魯國領地ノ歲
 出入ニシテスケユイレル氏ノ出セル千八百七
 十四年合衆國交際年報中ニ見ヘタリ

千八百七十一年

歳入	歳出	不足
二二一三七五〇ルルブル	六七二六四四一ルルブル	四、六一一、六九一

千八百七十二一年

歳入	歳出	不足
二〇二二、二八〇	七、五二八、六二七	五、五〇七、三四一

印度

前書ノ景況ヨリ移リテ今印度ノ形状ヲ見ルニ
 亞細亞州ノ屬地ヲ處分スルニ於テ魯國ト英國
 トノ所為一目其差違判然タリ印度ニ於テハ其
 土人数百萬ノ生靈ニ比スレハ僅ニ英國人数千
 人ニ過キサル人員ヲ以テ從來北方並穩和ノ地

ヨリ移住シタル人種ノ所有スル諸権利ヲ防害
 シ而シテ全ク自己ノ利益ヲ計ラン為正當ノ領
 主ニ其政權ヲ施カントセリ印度諸州ノ産物タ
 ル木綿絹美好ノ羊毛砂糖香料米並其他無量ノ
 天然物産ヲ有シ無限ノ富アリト雖モ未タ之ヲ
 以テ足レリトセスシテメシチユストルボルミ
 ングハム及ヒレユフキールド(英國ノ製造所)ノ地方ニ
 於テ要需ノ為メ該地方ノ製造物ヲ壓止シ既ニ
 之レヲ滅絶セシムルニ至レリ該土ノ人民ハ空
 シク此壓制ヲ痛愁シ斯ク偏頗ニシテ我慾暴虐

ノ治下ニアラハ國民一般衰微シヨヲ經スシテ
 餓死ニ至ルノ外無ント論スルモノアリト雖モ
 此等ノ事ハ少シモ頓着無ク只英國貿易ノ要用
 スル處ヲ以テ足レリトス其語ニ曰ク勉メヨヤ
 印度人英國ノ市店及ヒ製造所ヲシテ繁盛ナラ
 シメ而シテ汝カ僅少ノ分配ヲ得カ為メ常ニ勉
 勵シテ物品ヲ産出セヨ若汝カ力尽キ倒ルニ
 至ラハ他人ノ來テ汝ニ代ルヘシ即チ大血戦ノ
 時ノ如ク一列ヲ乱サス一人倒ルレハ之レニ代
 ルニ他ヲ去ツヘシト而シテ英國ハ世界ニ對シ

斯ノ如キ掠奪ヲ為スルシトテ決意ヲ為セリト
 左ノ語ハ現時尙國萬國公法學家ノ一人近來説
 明セシ如ナリ曰ク英國ハ既ニ亞米利加ノ市場
 ヲ失ヒ佛國伊太里、獨逸及ヒ魯西亜ノ市場ヲ失
 ハリト雖モ亞細亞ノ市場之レニ代リ來レリト
 若シ其亞細亞州國々ノ内英國ヲ拒絶セントス
 ルノ國アルモ其國々ハ兵力ヲ有セサレハ一國
 毎ニ總テ英國ノ權内ニアラムルカ或ハ英國ノ
 飽キ足りテ既ニ要セサルニ至ル迄ハ其國々ヲ
 シテ壓服セシムヘシト

前書ノ景状ヲ以テスレハ高名ナル「マコーレー」
 氏ノ語意僞了解スル事ヲ得ヘシ全氏ノ語ハ第
 四十二號ノ建白第六條ニ載セタリト雖モ再ヒ
 爰ニ之レヲ掲載スヘシ亞細亞州中ニ在ル圖謀
 アルモノ、為メニ莫ニ其國家ヲ愛スルモノハ
 予カ説ノ真偽ヲ疑フナルヘシ「マコーレー」氏ノ
 語ニ曰ク英國ノ暴政ヲ行フヤ人類社會ノ堪ヘ
 能ハサルノ極度ニ至レリ英人ハ土人ヲシテ強
 テ高價ニ買入テ為サシメ又安價ニ賣ラシムル
 ナリ而シテ罪無シテ土人ノ訟廳巡查及ヒ會

計官吏ヲ凌辱シ不測ノ富ヲ嘗時ニカルコツタ
 ニ集メ三千萬ノ生靈ヲレテ貧苦ノ極ニ陥ラシ
 ノタリ從來土民等ハ苛政ニ苦ムト雖モ未タ曾
 テ斯ノ如キノ残酷ヲ受ケスアタカモ印度政府
 ノ小指ヲ以テツルシヤトウラ譯者曰ソルシヤ
舊侯伯ニシテ千七百五十六年中カルコツタノ
ヲ攻取リ英國ノ囚虜ヲ穴ニセシモノナリ
 腰ヨリモ厚シト思想セリ譯者曰之レ該地ノ土
 人等ハ旧主ノ治下ニアル時ハ尚一ツノ便アリ
 若暴虐甚シク堪忍スヘカラサルニ至レハ土民
 蜂起シ其政府ヲ壓倒セリ然レハ英國政府ハ毛

モ勸スヘカラスシテ壓制ニ至ツテハ最野蠻ナ
 ル虐政ノ極度ニ至ルト雖モ其政府ニ於テハ開
 化國ノ全威カラ有シテ強カナリ之レヲ比例シ
 テ去ハハ人類社會ノ暴虐政府ト去ハンヨリ寧
 ロ惡魔ノ政府ニ類似セルト去フモ可ナリ

第六説

亞細亞州中既ニ魯國ノ版圖ニ帰セシモノ
 ト或ハ今獨立タルモ其既往ノ歴史ニ由リ
 判決ヲ下セハ將來魯ノ版圖タルヲ免レサ
 ルモノトノ人類ニ付テ論ス

予カ前説ヲ以テ既ニ概論セシ所ノ人類タルヤ
 地方ヲ占ムル所極メテ大ニシテ其歴史ハ照乎
 トシテ相存セルモノナリユハ恰モ各國人民ノ
 歴史ニ於テルニ如シ今此人類ハ魯ノ保護ヲ受
 ケ魯ノ兵籍ニ編入シ兵事討諒スルニ至テ將來

千二百七十九年支那北方一族長成吉思汗ナ
 ル者其部下蒙古人ヲ率ヒテアツシリア國ニ進
 軍シ途ニ中央亞細亞ノ韃靼王國ヲ覆滅シ勝テ
 ニ乘シテ北支那ヲ攻メ之レト戦ツテ利アリ此
 時ヨリ晋朝ヲ并ケリ
 又成吉思汗ハ其部下ヲ率ヒテカリスマイニス
 黨當時ノキスギス黨ヲ云フト兵ヲ構シ一大次
 戦ニシテ之レヲ勝テ勢ヒニ乘シテ行々戦ツテ
 行々勝利ヲ得終ニユリフレイツ河畔ニコロ

カス山傍迄平ラクルニ至レリ此頃カリスマイ
 ンス黨ハ「デアトアルメニア」ノ間ニ跨ル裏海
 邊リノ平原ノ地主タリ當地其一部分ハ白ハ
 亞ノ所領ニ歸セリ
 成吉思汗ノ嗣子次ニ起リ父ノ謀計ヲ助ケン為
 南支那ト戦ツテ利アリ南支那ハ始メ當時他
 所屬ト成レリ又全ク現時亞細亞土ル基ノ所
 轄タル「ロシ」ノ所領ヲ覆滅セリ夫レヨリ魯西
 亞「ポランド」國及ヒ「ホシガリ」國ニ侵入シ「タニ
 エ」フ「河畔」迄進軍シテ「マレ」リ之レヨリ

前キ數年蒙古人ハ日本 戦テ利アラズ頗フ
ル敗ヲ採レリ

ク 蒙古人攻入ノコトヲ日本歴史ニ記シテ云

龜山天皇即位元年(千二百六年)一個ノ彗星
天ノ東部ニ出テ凡ソ二年間依然トシテ全
所ニ存セテ尚此外全年間國內數ヶ所ニ於
テ屢々地震アリシカハ人民ノ恐怖一夫一
ラス今ノ如ク天地ニ異變ノ起ルハ是レ必
ラス我等ノ避クヘカラサル災害ヲ持來ス

ノ前兆タルカ故ニ如何ナル難事ノ起ルモ
曇リ難キトテ頗ル動搖ノ姿ヲ表ハセリ支
那ノ稱ヲ魯ト呼ビタルハ下度此頃ノ事ナ
リ叔テ又北方ノ蛮夷蒙古人ハ「キウ」人其他
近国ノモノ合ニテ凡ソ四十ヶ國內外ヲ亡
セリ次テ又魯ヲ侵シ終ニ「コライ」國ヲ降
セリ其後蒙古人ハ「コライ」國ノ土人タル
コトヲ案内考トシ使節ヲ我邦ニ馳セ尤
ノ書ヲ寄セリ其文中ニ掲ラテ云ク日本ハ
其貢ヲ我強國蒙古 納ヘシトサレ臣此

コーライイ土人ハ既
 何ヲ熟知ヤシモノナルカ
 テ其場ヲ免レントシ云ク日本海ハ波浪頗
 フル高ク航海ニ難キナリトテ使命ヲ遂ケ
 ス獨リハムプナル者筑前ノ太宰府ニ來リ
 書ヲ呈セリ斯クテ蒙古ノ通信廟堂ニ達ス
 ルヤ直チニ北條時宗ヲ召シテ蒙古ノ事
 議セシム當時北條時宗ハ將軍ニ仕ヘ太政
 フ握リ身執權ノ官位ニ在マセリ然ルニ北
 條ハ蒙古カ我邦ニ對スルノ不正ト侮慢

ナノ憤怒シ報答ヲ送ラサリケリ
 其後二年ヲ去リ蒙古陸軍ノ官員「カ」テキ
 エンコノ両員使命ヲ奉シテ對馬島ニ決
 曩キニ我邦ニ寄セシ通信ノ回答ヲ得
 ス然レニ使命果スマタハスシテ両員空
 シテ帰朝セリ全氏蒙古ニ帰国シテヨリ二
 年後再ヒ筑前江松ニコリヲヒツナル者來
 レリ當時全氏ケ蒙古國王并「コーライ」國王
 ノ書ヲ以テ「コーライ」使
 クテ天皇并ニ其侍
 頗フル恐怖ノ色

ヲ表ハシ國ノ安寧
 ヲ避ケテ穩便ノ送答ヲ與
 ナシト思想セリサレハ北條時宗ノ權威盛
 シニ勇氣逞フシテ益々之ヲ憤リ送答ヲナ
 サバリケレハ使節モ不得止其職分ノ一車
 モ遂ルヲ見ス。テ空シノ歸國セリ當時天
 皇位ヲ太子ニ讓リ其帝ヲ後宇多天皇ト專
 稱セリ此年ノ(千二百七十五年)季冬ニ至
 大將軍キント「ナル者軍艦三百艘海兵千
 五百人外ニゴ「ライ兵士八千ノ援卒ヲ率

トテ對馬壹岐ノ兩島ヲ襲ヒ遂ニ之レヲ取
 ル其後久シキヲ待タス又勝ニ誇ツテ筑前
 ノ太宰府ヲ侵カス此時殆ント又敵ノ為
 ニ勝チヲ獲ラレントセシカ獨リ日本元帥
 正二位景祐ノ勇膽ヲ以テ蒙古ノ軍將一名
 ヲ殺スヲ得且ツ之ト時ヲ齊シテ慮ラス大
 風吹キ起リ暴雨降り來ツテ之レカ為メ蒙
 古ノ船舶盡ク碎破シ兼組ノ兵平海底ニ沈
 没セシモ 擧ケテ數ノバカラス只僅ニ生
 命ヲ全フセシモノ 臣等
 ル畏縮ノ姿ニテ

夜中竊ニ遁逃セリ天明ノ遠ク敵船ヲ眺ム
 レハ敵兵ニ其踪跡ヲ見ク漸ク敵ノ逃去
 セシヲ曉リ我凱陣ノ兵士ハ敵兵ノ跡ヲ追
 ヒ志賀島近傍ニ於テ蒙古船一艘ヲ見出シ
 衆組ノ兵士百貳十名ヲ捕縛セリト
 センデスノ子孫クダライノ時代千二百六十年
 ヲリ千二百九十四年迄ニ於テ該國倍盛大ヲ為
 シ大權カヲ有スルニ至レリ
 此頃蒙古ノ所領ハ印度海ヨリ西比利亞ノ陸地
 ニ擴カリ又大海ヨリ現今ノ歐羅巴土耳ノ所

轄ニ譬リタルニユーラシアノ兩河ヲ以テ
 其國境トセリ又大汗ハ其居住ヲ支那ニ定メ
 其部下ノ小汗等ハ現今ノトシカス印度及ヒ西
 比利亞ノ所領ニ群居シ其數無限其他尚カブツ
 チヤカ白尔西亜及ヒサガツノ地ニ居住セシ大
 千三名アリタリ此サガツ國タルヤ裏海トアラ
 一海ノ南東ノ土地ヨリキニ全國ホクハラ國ノ
 南西ヘラツトアフガニスタンベロチスタン
 全國并ニ白尔西亜ノ東部ヲ含メリ千三百六十
 八年ニ至リ支那ハ蒙之ノ聲ヲ脱シ今年蒙古

人ヲ追放シ始メテ明朝ヲテリ該朝ハ千六百
四十四年迄連綿トシテ相續セリ此頃韃靼帝
ノ大概挙テ其帝王ノ反キ支那ノ反圖ニ歸セリ
茲ニ於テ支那ノ所領ハ「ヒンドスタン」ト亞細亞
魯西亜ノ間ヲ占メ北方ニ於テハ「アルタイ」山ノ
脈ヲ以テ國境トナシ而シテ「カスピヤ」海
「カフカソ」山脈ノ間ニアル大地方ヲ
メリ此山脈ハ南東ニ於テ今日ハ魯領ニ接ス
ツ其地方ノ廣サハ經線七十度緯線二十餘度ヲ
占メリコハ其度中ニ「西藏」國ヲモ合算セシモ

カ或又「西藏」國ヲ以テ境界ト定メタルモノ
判然クササルナリ且ツ「西藏」國ヲ征服セシハ千
七百七十年ノ頃ノ「ナリ蒙古」ガ「タイ」ノ治世
十百年ノ後ニ至リ大ニ衰へ此衰頽ニ乘シ該國
領主ノ一人タル「チンギス」ハ「カフカソ」ノ
昌シ不羈ノモノトナルヲ得タリ又「チンギス」ハ
時ヲ遷サス其他ノ領主ヲ服從セシメ「サカタイ」
ノ朝ヲ滅却シ「白尔西亜」ヲ橫領シテ其君主タル
「成吉思汗」ノ嗣子ヲ升ケ次テ「西歐」及ヒ「印度」ヲ服
シ尚眼ヲ西方ニ轉シテ「亞墨利加」ヲ極メ終ニ地中海

飛

義

首

迄其所領ヲ廣メリ此時實 千四百二年ナリ
 「チモール」死去 後ハ其帝國ヲ分ツテ教轄トナ
 シ其中重ナルモノ二國アリ云ク白尔西亞云ク
 印度是ナリ白尔西亞ハ千五百六年ヲ以テ其滅
 亡ニ陥リ印度ハ連綿トシ爾來其領主ノ名ヲ「カ
 レート、モーゴル」印帝國帝ノ名ト稱ヘリ
 千六百年代ニ至リ始メテ亞細亞海ニ歐人ノ渡
 航スルアリテ葡萄牙人ハ「ブルムス」「ゴリア」「セイロ
 ン」及ヒ「マラツカ」ノ地ヲ横領スルヲ得タリサレ
 氏此等ノ教地ハ皆爾來蘭人ノ名メニ畧取セシ

42

レタテ是レハ實ニ千六百三年ヨリ千六百六十
 三年迄ノ事ナリ蘭人ハ又「バタビヤ」國ヲ創建シ
 次テ日本ニ渡來シ「モラスクス」ノ地ヲ得タリ英
 人ハ又女王「エリザベツト」ノ女ニ方リ東印度公
 司ヲ起スヲ得タリ
 千六百六十一年ニ至リ英人ハ「ホムベイ」ノ地ヲ
 得次テ既ニ蘭、佛、葡人ノ印度ニテ保有セシ教地
 數地ヲ横領セリ
 斯ノ如ク歐州人ノ遠ノ波濤ヲ冒カシテ亞
 細亞州ニ其所領ヲ得ルノ「魯國」ハ此時漸ク起

リテ干戈ヲ交ヘスシテ頗ル平静ニ陸地ヲ追
 フテ北極洋迄傍ノ全國ヲ横領シ終ニ土尔基白
 尔西亜及ヒ支那ノ真境迄進入スルヲ得タリ
 此頃ニ方ツテハ五細亜諸國ニ於テ革命ノ上ハ
 一ナク極メテ騷擾ノ姿ヲ表セリ千六百四十四
 年ニ至リ支那ハ滿州人ノ叛領スル所トナレリ
 故ニ其滿州ノ地ハ合シテ支那帝國ノ一州トナ
 レリ當時滿州ノ地位タルヤ韃靼ヨリ北東ノ極
 陸ニ方リ太平洋ト相接近セリ斯クシテ滿州人
 ハ堅ク明ノ王位ヲ占メ「ヒマラヤ」并ニ「ヒロ
 ール」

山ノ近傍迄其地ヲ廣ケ其國權ヲ轟カスニ至リ
 タリ
 北方ニ於テハ既ニ斯ノ如キ有事ノ日ニ方テ
 南「^{シベリア}」^{シベリア}「^{シベリア}」^{シベリア}「^{シベリア}」^{シベリア}及ヒ「^{シベリア}」^{シベリア}「^{シベリア}」^{シベリア}「^{シベリア}」^{シベリア}ノ三王國ヲ合シテ帝國
 安南ヲ建テ「^ア」^ア「^ラ」^ラ「^コ」^コ「^シ」^シ「^ン」^ン及ヒ「^ル」^ル「^タ」^タ「^バ」^バ「^ン」^ンタル三
 王國ノ滅亡ヲ以テ帝國綏甸ヲ建國セリ
 終ニ亞細亜ノ回教國タル土尔基并ニ白尔西亜
 ノ國勢ハ衰頽ニ陥リ其地方ノ境界ハ魯西亜
 爲メニ蚕食セララル、ニ至リタリ
 魯西亜カスノ土耳其、白尔西亜兩國ノ國威ヲ殺

キシニ方クテ「アフガニ」人ハ一大帝國ヲ起スラ
 得タリ且其所領ハ「アフガニ」人又白尔西垂ヨ
 リ横領セシ地方ヨリ「インド」河畔迄ヲ占メリ
 カレ此帝國ハ建国以來五十年ヲ出スシテ滅
 亡ニ帰シ終ニ「カボント」及ヒ「バル」チ
 スタ「ン」ノ三國各分裂シテ別國トナレリ此ノ中
 「カボント」及「ラツト」ノ兩國ハ再ヒ合シテ今「ア
 ガニスタ」國ト称シ「バル」チスタ「ン」ハ獨立帝
 國ヲナセリ
 「グレ」ト、「モ」ゴルノ所領ナル印度帝國ハ直チ

ニ衰頹ニ陥リタリサテ「タマス」コ「リ」イ、汗ハ先
 キニ千七百三十六年ニ於テ白尔西垂ヲ降セシ
 カ又印度ニ進軍シテ之ニ勝テタリ此時「タメル
 」子孫ニ讓リシモノハ只一ノ空稱ニ
 テ他ニ一物モナカリキ「タメル」コ「リ」イ、汗死去
 以後ハ其副王并ニ奉行等ハ羈絆ヲ脱シ歐洲諸
 國ト計リ殊ニ佛國ト約ヲ結ンテ「グレ」イト、モ
 「ゴル」ヲ討タン「フ」議シ「アフガニ」人ノ先鋒
 以テ同盟奉テ去地ヲ攻メ「モ」ルノ相續ヲ未
 タタリ然ルニ英人ハ獨リ此年議ニ乘シテ「グレ

一、下、モ、一、ゴ、ル、ニ、黨、シ、千、七、百、六、十、年、ニ、至、リ、之、カ
 報、償、ト、シ、テ、全、帝、ヨ、リ、「ベンガル」リ、キ、ザ、并、ニ、「ベ
ハル」ノ、地、ヲ、得、予、七、百、九、十、年、ニ、至、テ、ハ、ヨ、ロ、シ、ク
 全、印、度、ヲ、統、御、ス、ル、ノ、勢、ト、ナ、リ、茲、ニ、於、テ、英、ハ、ハ
 奇、キ、ノ、全、盟、タ、リ、シ、「グレイト」モ、一、ゴ、ル、帝、ト、交、ラ
 絶、チ、之、ニ、反、シ、テ、全、帝、ヲ、其、ノ、宮、殿、ニ、禁、錮、セ、シ、メ、
 以、テ、大、權、ヲ、握、ル、ノ、基、礎、ヲ、置、ケ、リ
 英、ハ、斯、ル、大、國、ヲ、領、シ、其、部、下、一、億、八、千、萬、ノ、人、ロ
 ヲ、御、ス、ル、ニ、眩、惑、ト、壓、制、ト、ヲ、以、テ、ヨ、ク、之、ヲ、維、持
 シ、得、一、予、予、ハ、其、能、フ、ヲ、信、シ、ア、タ、ハ、サ、ル、十

リ、時、ニ、緩、急、ハ、預、メ、期、ス、ベ、カ、ラ、ス、ト、雖、モ、何、レ、ニ
 モ、再、ニ、叛、逆、ノ、國、旗、ヲ、颯、ヘ、サ、バ、ル、ヲ、得、ス、予、ヲ、以
 テ、之、ヲ、視、レ、ハ、英、ノ、命、運、ハ、頗、フ、ル、輕、薄、ナ、リ、ト、云
 ハ、サ、ル、ヲ、得、ス、其、印、度、ニ、屯、營、ス、ル、兵、士、ハ、英、人、凡
 ソ、八、萬、土、人、凡、ソ、三、十、萬、ニ、一、皆、英、ノ、兵、式、ヲ、學
 ビ、英、ノ、兵、器、ヲ、用、ユ、且、ツ、其、軍、吏、モ、盡、ク、英、人、ニ、ア
 ラ、サ、ル、ハ、ナ、シ
 千、八、百、五、十、六、年、印、度、土、兵、ノ、過、半、カ、叛、逆、ヲ、起、シ、
 稍、々、勝、利、ヲ、得、タ、ル、ハ、我、輩、ノ、明、知、ス、ル、所、ナ、リ、サ
 レ、臣、英、ハ、頗、ス、ル、慘、忍、ノ、處、ニ、下、シ、テ、之、レ、ヲ、壓

服セリ爾來今ニ至テ此土兵ハ整頓セサルナリ
或ハ若シ整頓ニ至リシトモ英國ノ為メニ忠謀
盡カテ證スルハ量リ難シ

